

認知症の人と関わる
在宅支援スタッフの
皆様へ

在宅支援チームのための 認知症の人の 医療選択支援ガイド

医療と介護のバリアフリーを目指して



JST/RISTEX

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域
「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」

平成27年9月30日

は・じ・め・に

認知症の人の受診に同行した際、本人の意思が十分に確認されないまま、治療方針が決められてしまうと感じた経験はないでしょうか？ 介護支援専門員（ケアマネジャー）や後見人の方々は、一人暮らしの認知症の人の代わりに、病状説明や手術の同意書にサインを求められて困った経験があるかもしれません。地域包括ケアが推進されていますが、医療行為の決定についても地域と病院の連携が重要です。在宅では、健康な時から本人の意向の確認に努め、いざ病院で治療となった時にはその情報が確実に伝わるようにしたいものです。

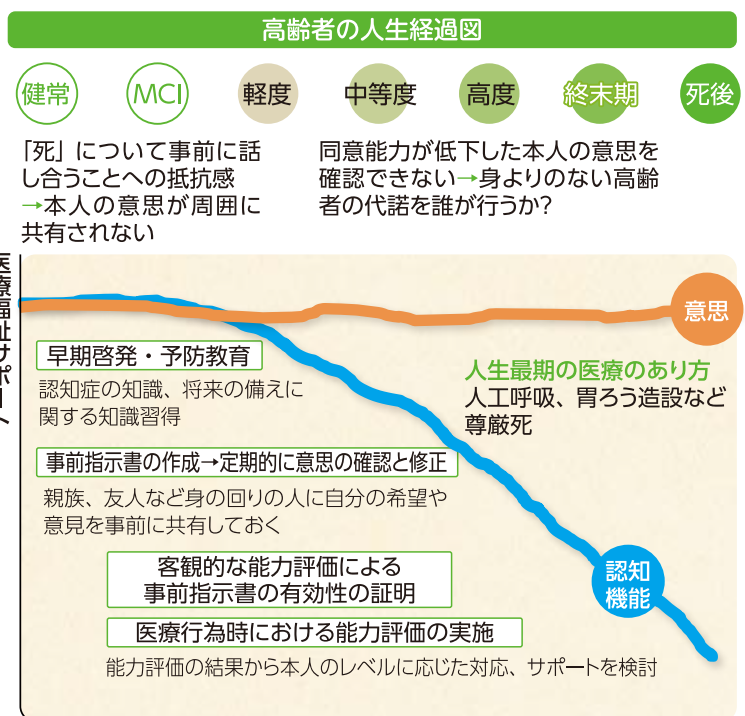
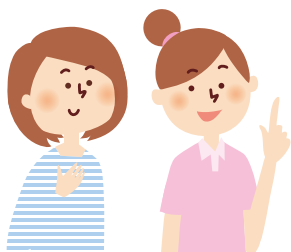
このガイドは、家族、ケアマネジャー、後見人、訪問看護師などの地域で認知症の人とその家族を支援する方々に向けて、医療行為の決定に関して在宅と医療の連携を進めるにはどうしたらよいか解説します。たとえ認知症という病名がついていたとしても、適切に本人の能力を捉え、同意能力を引き出すためのサポートを提供することで、自らの希望に沿った医療行為を受けられる方々が増えることを願っています。



1 高齢になるとどのような経過が予想されるのでしょうか

85歳を超えると4割以上の方が認知症を患います。そうすると、本人から治療に関する希望を聞くことは難しくなってきます。

右図は認知機能の低下とともに、生じてくる課題や、必要なサポートを図式化したものです。在宅で支援を開始した時から折に触れてその人の医療やケアに関する希望を聞くようにしましょう。そしてそれを記録して、病院に伝えるようにすることで、病院での認知症の人への治療内容がよりその人の希望に沿ったものになることが期待されます。



2 医療行為について 病院で家族に相談されること



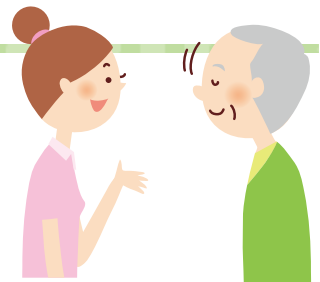
- 急変時、救命処置（心臓マッサージ、血圧を上げる薬、人工呼吸）をしますか？
- 口から物が食べられない時に、胃ろう、経鼻経管栄養、中心静脈栄養、点滴をしますか？
- 腎臓の働きが悪くなった時に透析をしますか？
- 呼吸が苦しくなった時に鎮静剤を使いますか？

- ⇒ 医療機関に本人のもともとの希望や話していたことを伝えましょう。
- ⇒ お元気なうちからこのようなことについて本人と話し合っておいたり、事前指示やエンディングノートとして書くことが勧められます。ガイドのp.5に掲載されている「私の思い」は本人の価値観や意思を把握するのに役立ちます。

いずれも生命に関わる重い決断ですが、本人の意思を推測できる立場で家族の意見も意思決定に重要な役割を果たします。分からないことがあれば医師や看護師、ソーシャルワーカーに説明を求めましょう。最終的には医療者と一緒に治療の結果、生活がどう変わるかや、本人の苦痛などを考慮して判断していくことになります。

3 医療行為を決定する時に 考慮すべきこと

- まずは本人に希望を聞いてみましょう
 - ⇒ 医療行為への同意は、本人の生命・身体に関わることから、家族からの同意は必ずしも法的に有効とはいえません。
- 説明をどれだけ理解しているかを評価してみましょう
 - ⇒ 認知症の重症度だけで判断するのは不十分です。
 - ⇒ 当該医療行為の理解を評価するために、治療のメリットとデメリットを本人の言葉で説明してもらいましょう。
- お元気な時に希望を聞いておきましょう
 - ⇒ 聞きづらい時は家族が入院されたり亡くなられたりした時の話から入る方法もあります。



4 病院での治療の流れと連携

次図は病院での治療の流れを図式化したものです。すべての段階で在宅支援チームが関わり、情報を共有することで本人の意向を反映した医療選択につなげることができます。

地域支援チームと病院のスタッフの連携には、まず外来時からの情報共有、入院時に病院に届ける情報の整理が必要です。入院中の治療方針の意思決定にもできるだけ加わることが望まれます。退院時には、

次回に同様の状態で入院した場合の対応や自宅での急変時の対応について病院スタッフと情報を共有しておくことがスムーズな連携に不可欠です。

外 来	入院時	入院中	退院時
<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカー ・外来看護師 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 ・看護師 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 ・病棟看護師 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 ・看護師 ・ソーシャルワーカー
地域支援チームとの連携 キーパーソンの同定 病状の説明	現状と入院中予定される医療行為の説明 緊急時の救命処置の希望の有無	状態と必要な医療行為 予後の説明	入院中の医療行為の総括と退院後の治療内容 予後の説明

- 確実に本人の希望を医療機関に伝えるために普段から医療機関と連携しておきましょう。
- 退院後の受診時に、本人の希望を再確認しましょう。

5 本人の理解を促し、意思を汲みとる工夫

高齢者の多くに、話が聞こえにくい、字が見えづらいといった、聴力や視力に関する困難さがみられます。このような特徴をふまえた上で、理解を助ける方法を意識してみましょう。

また、医療に関して慣れない説明を受けて、意思決定を迫られたら、誰でも戸惑いや不安な気持ちが高まります。本人の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築することを大切にしましょう。

難聴・補聴器がある場合はなるべく装着してもらう

- ・本人の正面から口の形を見るように促し、大きく口を開けて発音して見せる
- ・必要以上に大きな声で伝えると、難聴を悪化させる場合がある（騒音暴露）。適宜、筆談を用いる

注意・人の出入りや他の人の話し声などが気にならず集中できる環境

- ・話す前に名前を呼んで注意喚起

記憶・一文を短く区切る。キーワードとなる言葉は一文に1～2個程度が理想

- ・字や図など視覚的な補助を使うと、記憶に残りやすい。説明の時に使ったメモや図を、後日の確認の時に使うと思出しやすい

理解・平易で簡単な言葉、馴染みのある表現で繰り返す

- ・説明内容のポイントを分かりやすく書いて指し示す
- ・実際の病変の部位を確認しながら説明する

選択・選択肢を2つに絞る→「はい」「いいえ」で答えられる質問

※サービス内容の意思決定支援の際にも応用することができます

6 家族への支援

本人を支える家族も悩み迷いながら様々な決断を迫られます。家族の支援にも目を向けてみましょう。

- 病院での説明の理解を助ける
説明を、本人、家族は十分理解できているでしょ

うか。確認して、不十分な場合は、説明を加えたり、医療スタッフに説明を受けることを援助しましょう。

- 在宅に戻ってからの生活をイメージしてもらいましょう。

「家族の会」の相談窓口もあります

公益社団法人 認知症の人と家族の会

HP: <http://www.alzheimer.or.jp/>

〒602-8143 京都府京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内

TEL : 0120-294-456 (無料) (月～金 / 10:00 ~ 15:00)

※携帯、PHSから075-811-8418 (有料)

私の思い

(作成日： 年 月 日)

住所 ●

氏名 ●

生年月日 ● _____ 年 _____ 月 _____ 日

将来、家族・成年後見人等がこの書面を見て支援の参考にすることを同意しますか。

 同意する 同意しない

※公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート作成の「成年後見ノート」を参考にしています。
<http://www.legal-support.or.jp/note/> から全文のPDFをダウンロードできます。

●趣味・嗜好

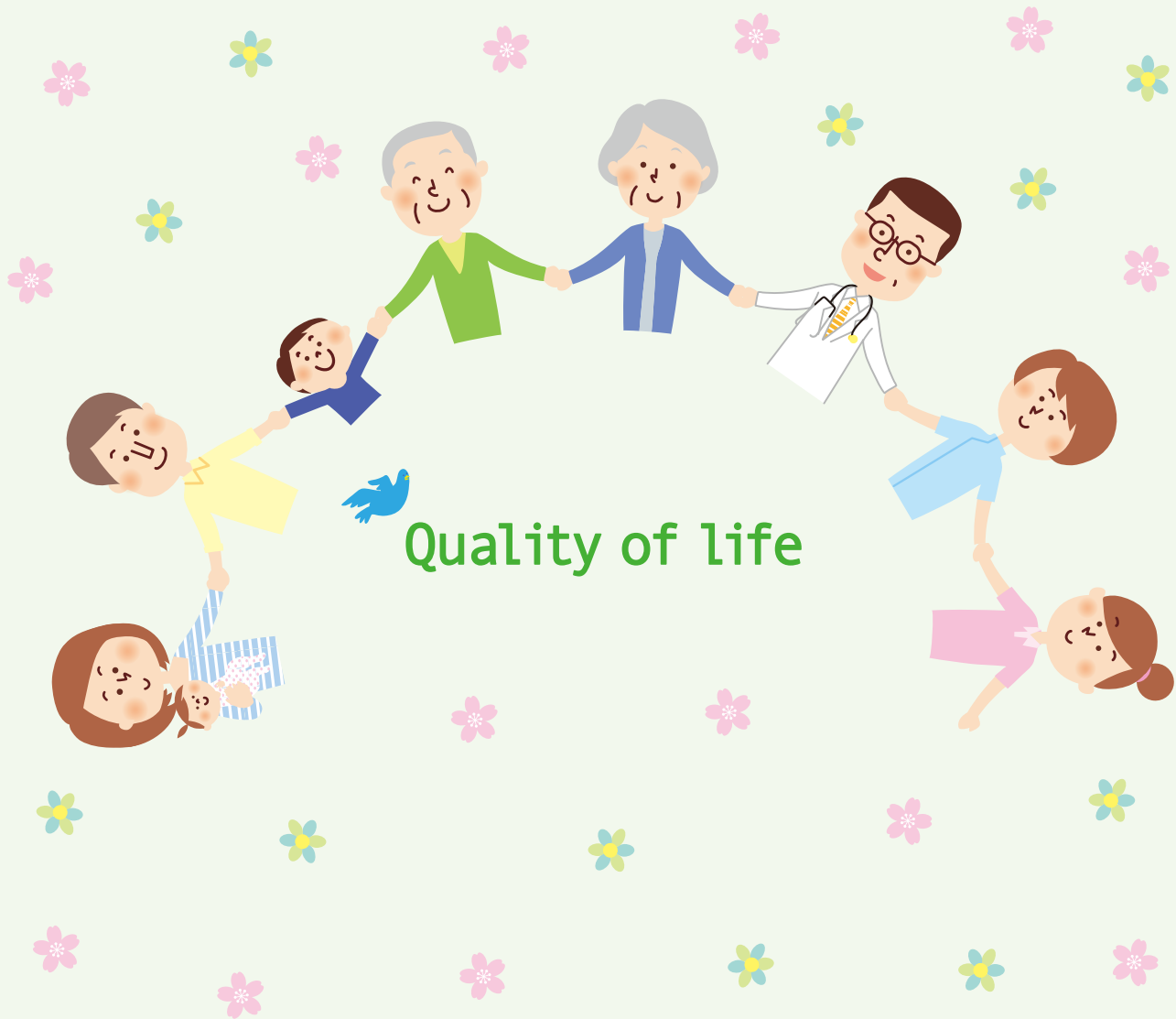
- ・外出 好き 嫌い どちらでもない
- ・家にいること 好き 嫌い どちらでもない
- ・好きな番組 時代劇 歌謡曲 悲しいドラマ 楽しいドラマ お笑い
- ・思い出に残る旅行 _____
- ・思い出に残る映画 _____
- ・思い出に残る出来事 _____

●暮らす場所はどうする？

1. 自宅で暮らし続けたい
 2. 自宅での生活が無理になったら施設に入居したい
 3. 自宅での生活が無理になったら子と同居したい
 4. 有料老人ホームなどを早めに決めて新しい人生をスタートさせたい
 5. その他 (_____)
- 上記を選んだ理由 _____
- _____

●延命治療について

1. 望む
 2. 望まない⇒「延命治療について」を作成してください
 3. その他 (_____)
- 上記を選んだ理由 _____
- _____



■参考資料

1. 飯干紀代子監修「DVDで学ぶ介護職のコミュニケーション技術 利用者とかかわるスキルの習得と実践」中央法規出版, 2014
→本人からの意向確認に役立つコミュニケーションスキルが実践的に解説されています。
2. 宇都宮宏子編著「退院支援実践ナビ」医学書院, 2011
→在宅生活を見据えた退院支援について、特に看護師の役割に焦点をあてて解説されています。
3. 公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート
→「成年後見ノート」<http://www.legal-support.or.jp/note/>

■作成日 平成27年9月30日

■作成・発行 JST/RISTEX
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域
「認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発」

詳しくはホームページをご覧ください

ホームページ▶<http://j-decs.org/>

J-DECS



Health care decision-making
support for people
with dementia in Japan